News Release

PeptiDream
各　　位

平成 26 年 4 月 1 日
ペプチドリーム株式会社
http://www.peptidream.com/
（証券コード：4587　東証マザーズ）

（訂正）「英国アストラゼネカ社のケビン・ハドソン博士が「KRAS をターゲットとした新しい癌治療薬」に関する当社との共同研究成果を Cambridge Cancer Science Symposium で発表しました」の一部訂正について

平成26年4月1日に開示いたしました「英国アストラゼネカ社のケビン・ハドソン博士が「KRASをターゲットとした新しい癌治療薬」に関する当社との共同研究成果をCambridge Cancer Science Symposiumで発表しました」の記載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。訂正箇所には下線を付しております。

【訂正前】

このたび、ペプチドリーム株式会社（代表取締役社長：窪田規一、本社：東京都目黒区、東責任者である Kevin Hudson 博士が「KRASをターゲットとした新しい癌治療薬」に関する当社との共同研究成果をCambridge Cancer Science Symposiumにおいて発表しましたので、ご報告いたします。

KRASは癌で最も変異しやすいことで有名な癌遺伝子の一つです。これまで、このKRASをターゲットとした有効な治療方法が確立されていませんでした。

このたび、Hudson博士は、当社との共同研究開発によって見つかった特殊環状ペプチドによって細胞内のKRAS遺伝子の機能を阻害することができたこと、さらに当該特殊環状ペプチドを創薬リード化合物にすべく研究が進められていることについて報告を行いました。

これまで細胞内でKRAS遺伝子の機能を阻害できる薬剤は存在していませんでした。今、製薬業界においては医薬品候補物質によって細胞内における各種のタンパク反応をコントロールできるかどうかが創薬開発の大きなテーマとなっていますが、この報告により、当社の特殊環状ペプチドが、細胞内における各種のタンパク反応をコントロールできることが証明されたと考えています。

【訂正後】

このたび、ペプチドリーム株式会社（代表取締役社長：窪田規一、本社：東京都目黒区、東証マザーズ）は共同研究開発パートナーである英国アストラゼネカ社の腫瘍学生命科学分野の責任者である Kevin Hudson 博士が「KRASをターゲットとした新しい癌治療薬」に関する当社との共同研究成果をCambridge Cancer Science Symposiumにおいて発表しましたので、ご報告いたします。

KRASは癌で最も変異しやすいことで有名な癌遺伝子の一つです。これまで、このKRAS遺伝子によって発現したタンパク（以下「KRASタンパク」といいます。）をターゲットとした有効な治療方法が確立されていませんでした。

このたび、Hudson博士は、当社との共同研究開発によって見つかった特殊環状ペプチドによって細胞内のKRASタンパクの機能を阻害することができたこと、さらに当該特殊環状ペプチドを創薬リード化合物にすべく研究が進められていることについて報告を行いました。

これまで細胞内でKRASタンパクの機能を阻害できる薬剤は存在していませんでした。今、製薬業界においては医薬品候補物質によって細胞内における各種のタンパク反応をコントロールできるかどうかが創薬開発の大きなテーマとなっていますが、この報告により、当社の特殊環状ペプチドが、細胞内における各種のタンパク反応を阻害できることが証明されたと考えています。

次ページに訂正後のニュースリリースを添付いたします。

以　上

News Release

PeptiDream
各　　位

平成 26 年 4 月 1 日
ペプチドリーム株式会社
http://www.peptidream.com/
（証券コード：4587　東証マザーズ）

英国アストラゼネカ社のケビン・ハドソン博士が「KRAS をターゲットとした新しい癌治療薬」に関する当社との共同研究成果を Cambridge Cancer Science Symposium で発表しました

このたび、ペプチドリーム株式会社（代表取締役社長：窪田規一、本社：東京都目黒区、東証マザーズ）は共同研究開発パートナーである英国アストラゼネカ社の腫瘍学生命科学分野の責任者である Kevin Hudson 博士が「KRASをターゲットとした新しい癌治療薬」に関する当社との共同研究成果をCambridge Cancer Science Symposiumにおいて発表しましたので、ご報告いたします。

KRASは癌で最も変異しやすいことで有名な癌遺伝子の一つです。これまで、このKRAS遺伝子によって発現したタンパク（以下「KRASタンパク」といいます。）をターゲットとした有効な治療方法が確立されていませんでした。

このたび、Hudson博士は、当社との共同研究開発によって見つかった特殊環状ペプチドによって細胞内のKRASタンパクの機能を阻害することができたこと、さらに当該特殊環状ペプチドを創薬リード化合物にすべく研究が進められていることについて報告を行いました。

これまで細胞内でKRASタンパクの機能を阻害できる薬剤は存在していませんでした。今、製薬業界においては医薬品候補物質によって細胞内における各種のタンパク反応をコントロールできるかどうかが創薬開発の大きなテーマとなっていますが、この報告により、当社の特殊環状ペプチドが、細胞内における各種のタンパク反応を阻害できることが証明されたと考えています。

【ペプチドリーム株式会社について】

ペプチドリーム株式会社は、独自の創薬開発プラットフォームシステム「PDPS」を用いて、「特殊ペプチド」による新しい創薬のための研究開発に取り組んでいます。「日本発・世界初の新薬を創出し社会に貢献したい」という現社長・窪田と現社外取締役・菅（東京大学大学院教授）の共通の夢から、平成 18 年 7 月に設立されました。

平成 26 年 4 月 1 日現在、海外製薬企業 7 社及び国内製薬企業 2 社とともに、まだ見ぬ新薬の製品化に向かって日々共同研究開発を進めています。

【本リリースに関するお問い合わせ先】
ペプチドリーム株式会社　経営管理部　関根
TEL：03-3485-7707

CAMBRIDGE CANCER SCIENCE SYMPOSIUM

MARCH 25-26, 2014

CAMBRIDGE, MA

PRECLINICAL PHARMACOLOGY OF ISIS-560131, A GENERATION 2.5 ANTISENSE OLIGONUCLETOTIDE TARGETING THE ANDROGEN RECEPTOR

Rebecca Ellston[1], Vivien Jacobs[1], Hayley Campbell[1], Andrew Thomason[1] Celina D'Cruz[2], Anne Marie Mazzola[2], Tianyuan Zhou[3], Joanna Schmidt[3], Minji Jo[3], Youngsoo Kim[3], Brett P. Monia[3], A. Robert MacLeod[3], David Blakey[1], Nigel Brooks[1], ***Barry R Davies[1]***

Oncology iMED, AstraZeneca, Alderley Park, Macclesfield, UK[1] and Gatehouse Park, Boston, MA,USA[2] and ISIS Pharmaceuticals, Gazelle Court, Carlsbad, C, USA[3]

AZD9150, A NEXT GENERATION, CONSTRAINED ETHYL MODIFIED ANTISENSE OLIGONUCLEOTIDE TARGETING STAT3

David Blakey, *Chief Scientist, Oncology iMED*

A BIODISTRIBUTION ASSAY TO DETERMINE PENETRATION OF ASO'S (ANTISENSE OLIGONUCLEOTIDES) IN PRE-CLINICAL TUMOURS

Vivien N Jacobs[1]*, Chris Womack[1], Barry Davies[3], Patricia McCoon[2], Richard Woessner[2], Neil R Smith[1]*

AstraZeneca Innovative Medicines; [1]Molecular Pathology Group, Translational Science AP, Oncology iMED, [2]Oncology Translational Science GHP, [3]Disease Models and Mechanisms Group, Oncology iScience

KRAS – A TEST CASE IN EMBRACING NEW DRUG MODALITIES

Isis and Peptidream Project Teams – Presented by ***Kevin Hudson (AZ Oncology Bioscience)***